

防災のページ



第1回 地震について

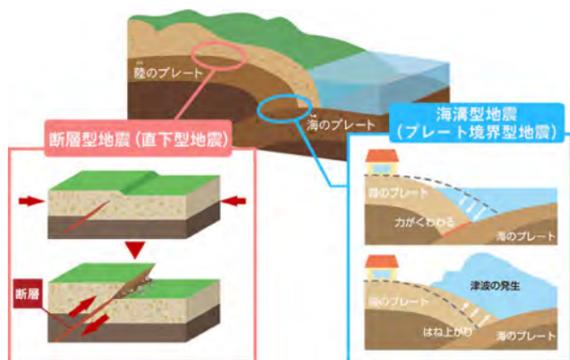
1 代表的な地震について

①断層型地震（直下型地震）

内陸の活断層で発生する比較的震源の浅い地震
地震の発生間隔は比較的長い
(例)阪神・淡路大震災、熊本地震

②海溝型地震（プレート境界型地震）

海と陸のプレートの境界あたりで発生する震源の深い地震
地震の発生間隔は比較的短い
(例)東日本大震災

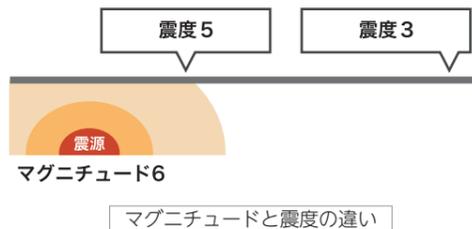


断層型地震と海溝型地震（参考：地震調査研究推進本部）

2 「マグニチュード(M)」と「震度」の違いについて

①マグニチュード(M)…地震そのものの規模を示すもの
マグニチュードが1増える→地震のエネルギーは約32倍
マグニチュードが2増える→地震のエネルギーは約1,000倍

②震度…地震発生時のある時点での揺れの強さを示すもの
震源に近い場所ほど震度は大きくなります。震源が浅いか深いかによっても地表での震度は異なり、浅いほど大きくなります。



3 地震が起きたときの行動例

地震が起きたときや、その後の行動を考えておきましょう。

地震発生

緊急地震速報や、大きな揺れがあった時は、まずは身の安全を最優先に行動してください（丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」、「倒れてこない」、「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る）。

地震直後

火元の確認と初期消火▶火を使っているときは、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をしてください。なお、出火しているときは消火してください（ただし、無理はせず、119番通報や周囲に助けを求めると）。
出口の確保▶揺れがおさまったことを確認してから、ドアや窓を開けて、必要に応じて避難ができるように出口を確保してください。

揺れがおさまったら

避難▶家屋倒壊のおそれがある場合や、近隣に大きな火災が発生したときは、避難所などに避難してください。
正しい情報を集める▶ラジオやテレビなどから正しい情報を集めてください（災害時に増えるデマや流言飛語にまどわされないようにする）。
隣近所の安全を確認する▶自分の家の安全が確認できたら、隣近所の安否を確認（特に高齢者世帯など要配慮者がいる家に、積極的に声をかける）。

4 町の指定避難所について

地震が起きたときの避難場所を把握しておきましょう。

避難所施設名	避難地区
幌内マナビィハウス	幌内
高齢者自立支援センター「ならやま」	富里・高丘
総合福祉センター	吉野・桜丘・朝日・本郷・幌里・京町・表町・本町・錦町
厚真中央小学校	新町・美里・東和・宇隆・上野・豊川・豊沢
厚真中学校	新町
スポーツセンター	本郷・幌里
厚南会館	共和・共栄・上厚真
上厚真小学校	豊丘・軽舞・鹿沼・厚和・浜厚真・鯉沼・富野・清住

町では、防災行政無線（災害情報や町からのお知らせが放送されます）を無償貸与しています

ぼうさいコラム

Disaster Management Column

最終回 連載のおわりに



防災マスターのミーティング



さだいけ ゆき
定池 祐季
東京大学大学院情報学環
総合防災情報研究センター(CIDIR)
特任助教

剣淵町出身。北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）。北海道大学助教を経て現職。専門は、災害社会学・防災教育。
北海道南西沖地震を奥尻島で経験、災害復興と地域防災に関する研究に取り組むほか、各地で防災教育活動を展開している。2014年より厚真町防災アドバイザー。

3月22日、町内在住の北海道地域防災マスターを対象としたミーティングが開催されました。新しく始めた活動、継続している活動などについて、ご報告いただきました。厚真町内の防災マスターは現在30人。町内各地に防災リーダーが育っていて、とても頼もしく思います。町内の保育園や学校、放課後子ども教室、防災マスター研修、防災訓練など、厚真町でさまざまな活動に関わらせていただけたことは、私自身にとっても大きな財産となりました。さて、私事ですが、3月末に

が、丁寧に向き合っていくと考えると、この4年間は、厚真町に通うたびに自然、食べ物、そして人の魅力に引きつけられ、いろんな愛着が増していききました。これまでのような頻度で厚真町を訪ねることはなくなりますが、また機会を作って訪問したいと思っています。そして、その時には、厚真町内地域防災活動が充実し、さらに魅力ある地域になっていることを期待しています。これまで本当にありがとうございました。

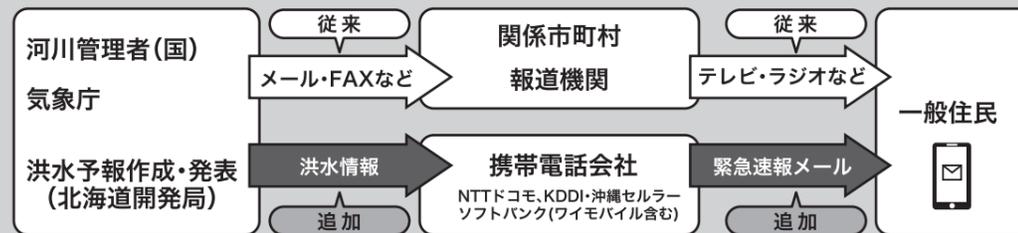
洪水情報が緊急速報メールで配信されます

北海道開発局室蘭開発建設部では、「北海道緊急治水対策プロジェクト」を踏まえて、平成29年5月1日から、自治体や携帯事業者との調整等が整った鶴川水系むかわ町、厚真町において洪水情報(※1)のプッシュ型配信(※2)を開始します。他の国管理河川については、今後順次配信対象エリアを拡大していきます。

(※1)洪水情報とは、指定河川洪水予報の氾濫危険情報(レベル4)および氾濫発生情報(レベル5)の発表を契機として、流域住民の主体的な避難を促進するために配信する情報です。

(※2)プッシュ型配信とは、受信者側が要求しなくても発信者側から情報が配信される仕組みのことです。

【洪水情報のプッシュ型配信イメージ】



留意事項

- ・携帯電話事業者毎の基地局や通信システムの関係により、配信対象となる市町村よりも広範囲のエリアに緊急速報メールが送信されることがあります。
- ・携帯電話の電源が入っていない場合や、圏外、電波状況の悪い場所、機内モード時、通話中、パケット通信中の場合は受信することができません。
- ・ご利用の機種により、緊急速報メールに対応していない場合があります。
- ・緊急速報メールを受信するために、受信設定が必要な場合があります。詳細については、各携帯電話会社のホームページよりご確認ください。

問い合わせ 総務課 研修防災グループ ☎ 27-2322
北海道開発局室蘭開発建設部治水課 ☎ 0143-25-7045